

第9回

佐倉の第

演奏会

～市民の第9～



2008年12月14日(日)午後2時開演

会場：佐倉市民音楽ホール

Beethoven : *Symphony Nr.9 in D-Moll*

Brahms : *Schicksallied*

## プログラム

ブラームス Johannes Brahms

### 運命の歌 Op. 54

ベートーヴェン Ludwig van Beethoven

### 交響曲第9番 二短調 Op. 125 合唱付き

(ペーレンライター社新版)

#### 第1楽章 二短調

アレグロ・マ・ノン・トロppo・ウン・ポコ・マエストーソ

#### 第2楽章 二短調

モルト・ヴィヴァーチェ

#### 第3楽章 変口長調

アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

#### 第4楽章 二短調 合唱付き

アレグロ・マ・アレーグロ

指揮：三原明人

ソプラノ：相京利枝  
メゾ・ソプラノ：猪村雅子  
テノール：秋山健治  
バリトン：若林 浩

管弦楽：佐倉フィルハーモニー管弦楽団

合唱：佐倉第九合唱団

合唱指揮：若林 浩  
合唱副指揮：永倉嘉代子  
小見山圭  
練習ピアニスト：天田文子  
徳高香恵

## プログラム・ノート

J.ブラームス Johannes Brahms (1833～1897)

馬場 孝之

### 運命の歌 Op.54

ブラームスの作品では、交響曲・大学祝典序曲・ピアノ協奏曲などが知られているが、合唱曲も50曲近くある。この中でも「ドイツ・レクイエム」と「運命の歌」が有名であり、重要な作品と言われている。ベートーヴェンの「静かな海と楽しい航海」のように管弦楽と四声の合唱曲で、前半は静かな、後半は動的な構成となっている。調は短調であるが、最初は変ホ長調で始まり最後はハ長調で、ブラームス特有の和声や歌詞の内容を巧みに導いて音楽作品としている。合唱の各声部だけの旋律は耳なじまないが、四声になると美しい合唱となり、管弦楽の文えにより深味のあるものとなっている。

歌詞は、詩人フリードリッヒ・ヘルダーリン(1770～1843)。ギリシア文学に傾倒していたヘルダーリンは、「運命の歌」において、神々の平和な世界と人間世界の混沌とした不安、悪を対比させて、人間を破滅していくことを詩にしている。ブラームスは1868年、ドイツ北部オルデンブルクでヘルダーリンと知り合い、彼の詩「運命の歌」に関心を持ち、この地でデッサン楽譜を書き上げ、1871年5月バーデンバーデンで完成させた。初演は、1871年10月18日ドイツ・カールスルーエ博物館ホールでデラームスの指揮で行われた。

ブラームスは、神の平和な世界を静かに、破滅に向かう悪の人間世界を速いテンポの合唱曲でまとめたが、最後に、管弦楽で人間界の不安と焦燥感を与えてくれる。この後奏は、声楽曲における管弦楽の詩的な効果をもたらしたものである。優れた「運命の歌」の存在価値を高めている。ベートーヴェンを範としていたブラームスの新しい時代に対応した意欲的な、優れた作品である。指揮者三原明人氏が「運命の歌」とベートーヴェンの「交響曲第九番」を組み合わせた意図をご理解いただけることと思う。演奏時間約20分。

〈天上神の世界〉

ゆっくりと憧れをもって管弦楽の演奏が始まり、やかにすべての人間へ訴えかけるように合唱が加わる。  
天上神の世界を歌う前半は、幸せに満ちて静かに終わる。

Ihr wandelt droben im Licht auf weichem Boden, selige Genien!

穏やかな天地の光の中をそぞろ歩く精霊たちよ!

Glanzende Götterlitfe Rühren euch leicht,

輝きに満ちた微風があなたたちに心地よくふれる。

Wie die Finger der Künstlerin Heilige Saiten.

あたかも乙女の演奏家が気高い堅い堅琴を奏するように。

Schicksallos, wie der schlafende Säugling, atmen die Himmlischen;

安らかに眠る幼子のように、あなたたちは神に運命をゆだねて息づく、

Keusch bewahrt in bescheidner Knospe Blühet ewig, Ihnen der Geist,

つつましくやかな蕾の中で汚されることなく守られ、あなた達の心は永遠に花咲き香る。

Und die seligen Augen Blicken in stiller, Ewiger Klarheit.

喜びに満ちたまなざしは、静かに限りなく輝いている。

(地上の世界)

管弦楽が速いテンポで、不気味な不安定な地上の世界を表す中に、合唱が力強く不気味感を漂わせて入ってくる。この後半の詩は、3回繰り返される。

Doch uns ist gegeben, Auf keiner Statte zu ruhn;

しかしながら、私たちには安らう場所もなく

Es schwinden, es fallen Die leidenden Menschen

Blindings von einer Stunde zur andern.

Wie Wasser von Klippe Zu Klippe geworfen. Jahrlang ins Ungewisse hinab.

悩める人間たちは、めくら瀧法に時から時へと、

岩から岩へと水がぶつかると、長い年月、地獄の底へと落ち、消滅してしまう。

ベートーヴェン Ludwig van Beethoven (1770~1827)

## 交響曲第9番 二短調 Op.125 合唱付き

ベートーヴェン最後の交響曲は、人間愛を原点において、人類の平等と平和、神への祈りの中から真の歓喜に至るというシラーの頌歌「歓喜に寄す」を合唱とし、管弦楽曲と融合させたベートーヴェン執念の結実である。第3楽章までと合唱の加わった第4楽章には、音楽的に違和感があるなど、この交響曲については論もあるが、ベートーヴェンの意欲作には必ずと言って良いほど使われているフーガがあること、第3楽章から第4楽章への移行の巧みさを観ると、極めて優れた交響曲である。

彼は16歳の頃、「歓喜に寄す」に感銘し、音楽作品にすることを考えた。幾度か音楽作品化を試みるが、内面的に充実していた42歳(1812年)の頃から、その意欲がさらに高揚した。同年作曲の「交響曲第8番」の草稿に書かれた「歓喜、神々の美しき火花、娘、序曲を仕上げること。二短調交響曲」というメモや2年後の「歓喜に寄す」のモチーフなどから、合唱付きの交響曲の構想が伺われる。1822年10月、ロンドンの音楽協会から交響曲の作曲依頼より、第9交響曲の作曲に入る。ウィーン近郊のバーデンで大半を手がけ、1824年2月半ばにウィーンで完成させた。作曲の過程の中で、第10交響曲でと考えていた「歓喜に寄す」による合唱を第4楽章に入れた。初演は、1824年5月7日、ウィーンで彼自身の指揮により行われた。

第1楽章 弦楽器と木管楽器により神秘的な響きで始まる。混沌としていくが次第に統一され、盛り上がり、楽章全体が確立されていく。

第2楽章 リズムに富んだ激情性を持っているが、牧歌的な感じの中間部(トリオ)が、この楽章を効果的にしている。

第3楽章 平和と慰めを祈る楽章。主題が2つある独特な変奏曲形式であり、狂熱的、瞑想的な感じの素晴らしい楽章。

第4楽章 早いテンポの管楽器だけの演奏で始まる。続いてチェロ、コントラバスの激しい演奏となり、これにより1,2,3

楽章が否定される。その後、有名な「歓喜に寄す」のメロディーが表れ、バリトンのソロ、合唱が加わる。やがて、テノールと男声合唱による「歓喜」への行進曲、管弦楽による歓喜のかけ合いとなる。「歓喜と抱き合おう」の壮大な二重進行(ダブル・フーガ)が展開され、祈りの調への後に、再び歓喜の合唱となり合唱と管弦楽が一体となり高揚して曲は終わる。

## ● 三原明人 (指揮)



東京藝術大学でヴィオラを専攻、桐朋学園とウィーン国立音楽大学で指揮を学ぶ。小沢征爾、秋山和慶、尾高忠明、カール・エステルライヒャー、ヴァーツラフ・ノイマン、ゲンナジ・ロジェストヴェンスキー、モーシェ・アツモンなど著名な指揮者に師事。1989年第2回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールで第2位。同年、アムテルダムでチャイコフスキーの交響曲「悲愴」でデビュー。1989/1990年のシーズン、ウィーン・フィルのコンサートでレナード・バーンスタインのアシスタント、1996年ベルリン・フィル来日公演でクラウディオ・アバドのアシスタントを務める。以来、日本、ヨーロッパ、アメリカで活躍中。主要な演奏会は、1995年6月にフィンランド・クオビオ管弦楽団ペートーヴェン特別演奏会で「交響曲第2番、第9番」を指揮、1996年10月に再度、同管弦楽団定期演奏会で、武満徹作品集とシベリウスの「交響曲第2番」を指揮。さらに1997年、フィンランド独立80周年記念公演で、ペートル・ヴェーン「交響曲第9番」を指揮する。1998年にはブルガリアのソフィア・フィル定期演奏会で、ペートル・ヴェーン、ブラームスなどの交響曲を指揮して大成功を取めた。2003年、阪神大震災被災児救援チャリティコンサートで、十河陽一郎作曲「木漏れ日、そして祈り」の初演を指揮、2004年、京都フィル定期演奏会で、ビニヤオ作曲「マリンバ協奏曲」の日本初演など現代音楽プログラムで絶賛されている。

「佐倉の第九」には第1回から関わっており、今回で8回目の指揮となる。松戸市在住。

## ● 相京利枝 (ソプラノ)



国立音楽大学声楽科在学中、国立室内オペラのウエーバー「アブ・ハッサン」ファティーメ役に抜擢される。1985年日本演奏家連盟オーディションに合格し、東京文化会館小ホールにてジョイント・リサイタルを行う。その後、二期会公演モーツァルトのオペラ「魔笛」をはじめ数々のオペラに出演。中でも東京室内歌劇場による日本初演のピッチニコのオペラ「ラ・チェッキナーナ」サントリーナ役では、「芸達者な相京利枝」と朝日新聞で絶賛された。落語をオペラ化した関戸道成作曲「芝浜」では、女房役を好演し、この作品の周知に貢献した。1993年2月の再演にも出演。1993、1994年ドイツのフライブルグにおいて、独日協会主催の「日本人祭り」で、日本歌曲を歌い好評を得る。2004年7月、津田ホールで日本歌曲、イタリア歌曲のプログラムによる第15回リサイタル、2008年7月に日本大学カザルスホールにて第19回リサイタルを行う。NHK FM放送、テレビ出演の他、最近ではシャンソン、カンツォーネ、ミュージカルにも挑戦し、幅広いキャラクター性を発揮している。CDは「美しき日本を歌う 春夏秋冬」、日本で初めてチェンバロ伴奏で歌った日本歌曲集「雅」、話題となった「慈炎華」、イタリア古典歌曲集「スミレ色の宝石箱」がある。二期会会員。日本演奏家連盟会員。茂原市出身。

## ● 猪村雅子 (メゾ・ソプラノ)



東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。青木美稚子、戸田敏子、高橋大海の各氏に師事。二期会オペラスタジオ、国府台女子学院講師を経て、1990年に渡米し、サンフオード・シルヴァンに師事する。これまでに、数多くのオペラ、コンサートで活躍しているが、主なものでは、栗山昌良演出によるモーツァルトのオペラ「魔笛」で童子3、青島広志のオペラ「黄金の国」で「天の声」、ひろしまオペラアンサンブル公演の尾上和彦のオペラ「ヤカモチ」で「堅香子の精」を演じている。

コンサートでは、バッハ「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、ペートル・ヴェーン「第九」などのアルトソロを務めている。またサロン・コンサートなどの出演も多い。2004年から2006年まで、千葉県文化振興財団主催の Aria & トークコンサートに出演。これまでに多くの合唱団で発声の指導に当たっており、現在は、四街道合唱団でヴォイストレーナーを務めている。佐倉市内でも小学校で声楽を指導するほか、2005年より二期会のメンバーとともに研究会を発足させ活動を続けている。「佐倉の第九」には前回に続いての出演となる。二期会会員。佐倉市在住。

● 秋山健治 (テノール)



東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。ベートーヴェン「合唱幻想曲」のソリスト、ヤナーチェクのオペラ「マクロプロス事件」(日本初演)のグレゴル役、ビゼーのオペラ「カルメン」ホセ役、プッチーニのオペラ「トスカ」カヴァラドッシ役、オペラ「ラ・ボエーム」ロドルフォ役、神田慶一作曲オペラ「銀河鉄道」青年役で活躍。1998年からイタリア留学。翌年、国際声楽家協会のオーデイションで1位となり、イタリア各地にてオペラ「ラ・ボエーム」、「椿姫」、「愛の妙薬」、「蝶々夫人」、「リゴレット」、「ドン・パスクワレ」等の主役を演じる。また、チェレセート吹奏楽団によるヴァイオリンとのデュオコンサート、モードツァルト「ミサ・プレヴィス」のソリスト、ミラノ・ジョランダでリサイタルを行う。ドイツ・ウエスターランドではボーランド・シンフォニー・オーケストラによる4夜連続3人のテノール饗宴と活躍し、いずれも好評を博した。2007年帰国。千葉で小林研一郎指揮「第九」でソリストを務めるなど、数多くのオペラ、コンサート、リサイタル、合唱指導と活発な演奏活動を展開している。ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ合唱団所属。千葉市在住。

● 若林 浩 (バリトン)



県立佐倉高等学校卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科で学び、同校を卒業。声楽を畑中良輔、竹沢嘉明の両氏に師事。指揮法を高階正光氏に師事する。1985年ウィーンに留学、マリア・ザウアー女史のもとで学ぶ。教職のかたわら声楽活動を続けており、毎年のようにウィーンにおいて声楽の研究を続けている。音楽活動は、東京室内歌劇場公演のオペラ「燃える炉」「脳死をこえて」をはじめ、パツハ「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」「マニフイカト」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」などのソリストとして活躍している。

1989年からリサイタルも行っており、2001年にはシェンペルト「冬の旅」をとりあげた。現在、合唱団コール・ドリーム、成田楽友協会合唱団の常任指揮者を務めているが、「第九」の合唱指導では定評があり、習志野、成田をはじめ県内各地の「第九」演奏会に関わり、ソリストとしても出演している。千葉県合唱連盟理事。「佐倉の第九」において第1回から合唱の指導にあたり、ソリストとしては第1回から6回と今回で7回目の出演となる。千葉市在住。

「ペーレンライター版」とは？

「第九」の演奏会では、広く19世紀半からドイツのブライトコプフ社の楽譜(旧原典版)が広く使用されています。「佐倉の第九」は、ドイツの出版社ペーレンライターの楽譜を使用しています。楽譜出版は、当然のことですが、作曲者直筆の楽譜を基にしています。ベートーヴェンの直筆譜は、書き置りのようであり、書き込みや削除などもあり、難読な部分も多々あります。伝統的なブライトコプフの楽譜においても間違いや指摘されることが多く、多くの指揮者は、この楽譜を基本とし、ベートーヴェンの直筆譜や資料を研究して演奏に望んでいます。従って、指揮者により様々であり、ペーレンライターの楽譜のように指摘しているかたもいます。さて、ペーレンライター社は、「第九」の校訂をイギリスの音楽研究者・指揮者ジョナサン・デルマーに委託し、1996年に「ペーレンライター版・第九」(新原典版)を出版しました。ブライトコプフ版から約150年ぶりであり、この楽譜により「第九」の解釈は新たなものになっています。ブライトコプフ版とペーレンライター版ではどこが違うのでしょうか。主な違いは次の3点です。

- A 第1楽章の第2主題 「レーソ/ファーンシブ/ラーシb/ドー」が「レーソ/ファール/ラー/ドー」となっている。
- B 第4楽章 テンパニーがディミヌエンド(だんだん弱く)する箇所(フォルティシモ(強い音)のまま演奏する。
- C 第4楽章中 2度目の「歓喜の歌」の合唱の直前 ホルンのリズム「タター/タター/タター」が「タター/ター/ター」となっている。

「第九」の演奏は、CD、DVDと多く出ています。どちらの版により演奏しているか聴き比べてみてください。双方の違いや指揮者の解釈の違いを味わうのも楽しいものです。本日の指揮者三原明人氏は、ペーレンライター版が出版された当時ヨーロッパで活躍しており、いち早く、この版による演奏に取り組みされました。

# 佐倉第九合唱団

佐倉第九合唱団練習委員会

委員長：平山 直道

庶務：大谷 和子 会計：蒔 重子・成田 保子

パートリーダー：ソプラノ 北條 教子・村上 光枝 アルト 勝田 治子・橋 美津江  
テノール 兼島 信彦・川島 幸一 バス 滝澤 孝一・鳥井 和彦

♪♪♪

♪♪♪

♪♪♪

♪♪♪

♪♪♪

♪♪♪

## ソプラノ

石井 いく  
太田 京子  
齋藤 光依  
杉野 眞弓  
高橋 康子  
徳本ゆかり  
浪川 弘子  
北條 教子  
村上 光枝  
山岸佳代子  
河野 博美

及川 祥子  
菊間 靖子  
清水 優子  
錦江 淑子  
立田 輝子  
永井千代子  
成田 保子  
本澤葉留美  
柚山 七重  
中道 睦子

大井 美保  
黒田 麗子  
清水 良美  
関口沙綾香  
月野木妙子  
永倉喜代子  
福島 園子  
松戸 清子  
守屋 和子

## テノール

飯田 光雄  
兼島 信彦  
小山 輝久  
櫻谷 正彦  
本田 真久  
小林 勝

稲田 敏明  
川島 幸一  
角谷 薫  
長竹 哲弘  
松原 靖行  
田村 言行

大賀 吉郎  
小見山 圭  
橋 幹夫  
中川 政直  
森下 公博  
藤田 靖美

## バス

天田 祐之  
太田 芳夫  
佐久間 努  
滝澤 孝一  
馬場 孝之  
平山 直道  
山崎 宏和  
北沢 長夫

伊藤 正明  
金井芳太郎  
嶋田 豊  
武知 弘記  
原田 和行  
福島 有恒  
山中 誠  
西崎 淳二郎

上田 哲郎  
河合 宏  
高橋 伸幸  
鳥井 和彦  
菱田 清勝  
町田 裕雄  
山本 茂樹  
宮崎 英一

## アルト

秋田久美子  
飯泉登美江  
大越美智子  
勝田 治子  
菊池 清子  
清水 俊子  
須原 芳子  
橋 美津江  
成尾 せき  
浜野 光江  
矢野 昌子  
川島 聡子

蒔 重子  
伊藤 愛子  
大谷 和子  
河合 美恵  
近藤 亮子  
清水和耶子  
高橋のり子  
中嶋 紀子  
西田 正子  
松山 洋子  
矢部 彰子  
田中 城子

畔森 裕子  
江口みどり  
大伴 葉子  
河栗 節子  
佐々木節子  
鈴木 泰江  
竹之下得子  
中野 隆子  
橋爪美奈子  
三橋三津枝  
吉村 昱子  
田村美佐子



若林先生の指導は13回、「運命の歌」の指導に力点が置かれた



7月から「運命の歌」の練習に入った。男声は小見山先生の指導、女声は永倉先生の指導。永倉先生は副指揮者としても活躍。



三原先生による合唱指導



合唱団の練習会場は、音楽ホール、白井公民館、佐倉中央公民館、和田ふるさと館の4会場で行った。

# 佐倉フィルハーモニー管弦楽団

団長 石鍋 豊和 事務局長 坂本 直樹

コンサート・ミストレス：城みどり

## 第1ヴァイオリン

黄川久美子 ◎庄司 睦美 角田 浩之  
 山川奈津子 ♪青水 晶央 ♪浅田 桂子  
 ♪上原佐貫絵 ♪川崎 牧子 ♪高橋 雅英  
 ♪星 宰 ♪武藤 貴子

## 第2ヴァイオリン

天本 春江 岩淵 善彦 上田由起子  
 佐藤 邦子 ◎二宮 伸雄 藤城 靖典  
 畑 保子 ♪忍田かやの ♪早川 貴子  
 ♪三原 愛里

## ヴィオラ

◎ 出口 愛 塚島友佳子 ♪池淵まゆみ  
 ♪ 大塚 佳子 ♪通藤 利幸 ♪高橋 泰子  
 ♪ 竹中 邦夫

## チェロ

◎ 加納由美子 清水 裕幸 福島かおる  
 松浦 晴彦 ♪谷口 悦史 ♪通山 光正  
 ♪早松 潤一 ♪藤塚紗也香

## コントラバス

八田 英司 ◎水田 裕樹 ♪井口信之輔  
 ♪木本 稔 ♪武市 佳奈 ♪野崎佑美子

## フルート

阿部 恵美 土方 理絵 ◎柳田 晴生  
 山田 綾乃

## オーボエ

氏家 徹郎 ◎辻野 豊博 松本賢一郎

## クラリネット

石鍋 豊和 梨木 美智 ◎原口 豊隆  
 福士 未樹

## ファゴット

◎大平麻海子 永田 和也 ♪戸塚 晃

## ホルン

岡 裕昭 ♪小林 昌樹 阪本 薫子  
 坂本 直樹 柴田かおる 田中 裕子

## トランペット

栗坂原靖司 大木 基之 ♪大崎 由莉

## トロンボーン

阿部 博 柴田 孝一 ◎村上 茂夫

## パーカッション

新井田久美子 ◎若菜真紀子 ♪近藤 博志  
 ♪岡崎 壽範

〈◎ パートリーダー ♪ エキストラ〉

佐倉フィルハーモニー管弦楽団は、地域文化の向上に寄与することを目的に、器楽演奏の好きな仲間により1983年に発足しました。練習・演奏の拠点は佐倉市民音楽ホールで、毎週日曜日、佐倉市民音楽ホールで練習、年2回の定期演奏会を中心に、積極的な演奏活動を行っています。

発足当初は、佐倉市内オーケストラと称していましたが、1988年12月第10回定期演奏会から佐倉フィルハーモニー管弦楽団と改名しました。結成から1995年までは、故亀山修二氏が指揮者、1996年からは辻遊耕史、村上満志、三原明人等の各氏が指揮にあたっています。

「佐倉の第九」の演奏は「市民の第九」として発足した経緯から、今回で7回目となります。

オーケストラの演奏に関心のあるかた、アットホームな温かい雰囲気になった佐倉フィルハーモニー管弦楽団への入団を歓迎いたします。

## 「佐倉の第九」演奏会の記録

第1回 1999(平成11)年12月19日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 開演15周年記念合唱団

S：大塚由乙 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

ワグナー：ニルンベルグのマイスタージンガー

第2回 2000(平成12)年12月24日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：平安亮子 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

第3回 2002(平成14)年2月14日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：佐橋美起 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

ワグナー：喜びて我らは貴き戦意に挨拶をおくる

第4回 2003(平成15)年3月9日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：佐橋美起 A：出来田美智子 T：榊原哲 Br：若林浩

ヴェルディ：思いよ 黄金の翼このつて

第5回 2004(平成16)年5月2日(日)

指揮：三原明人 東京交響楽団 佐倉第九市民合唱団

S：佐橋美起 A：大國和子 T：榊原哲 Br：若林浩

モーツァルト：交響曲第40番 ト短調 K.550

第6回 2005(平成17)年12月25日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九市民合唱団

S：宮部利牧 A：石井恵子 T：水越桂太郎 Br：若林浩

ベートーヴェン：静かな海と楽しい航海

第7回 2006(平成18)年12月24日(日)

指揮：ダニエレ・アジマン ニューフィル千葉 佐倉第九合唱団

S：N.S.ディロッコ Ms：P.ホルツィオ

T：A.ベルトロ Br：S. アンセルミ

(オペラ・アリアを各ソリストが1曲)

第8回 2007(平成19)年12月23日(日)

指揮：三原明人 佐倉フィル 佐倉第九合唱団

S：松島理恵 Ms：猪村雅子 T：小見山圭 Br：春日保人

(ソリストは佐倉在住、出身の歌手)

ヴェルディ：思いよ 黄金の翼このつて



ウィーン・カールス教会前にある彫刻する「ブラウームスの像」

### 佐倉の第九演奏会実行委員

委員長 馬場孝之 (第九市民楽フカドムオーサー)

委員 坊重子 (佐倉市民合唱団) 水倉喜代子 (佐倉市民楽)

平山由巳 (佐倉第九合唱団) 柳田晴生 (佐倉フィル合唱団)

下原勉 (佐倉市民楽ホール)

主催



佐倉市民音楽ホール

協力 佐倉市合唱連盟

第10回「佐倉の第九」演奏会は

2009年12月20日(日)

東京交響楽団 指揮 飯森範親

ソプラノ：大倉由穂江 メゾ・ソプラノ：谷口睦美

テノール：児玉和広 バリトン：久保和範

公募による佐倉第九合唱団

ベートーヴェン：交響曲第2番と第9番 合唱付き